



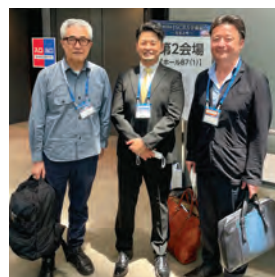
眼科 助教
高橋 鉄平

「涙道疾患でお困りの患者さんは、広い世代にわたっておられますが、適切な治療をすることで、症状を改善することが期待できます。ぜひ当院までお気軽にご紹介いただけますと幸いです。休日はフットサルや、家族と愛犬の散歩をして過ごしています。足つぼで疲れをとり、仕事に励んでいます」



眼科 助教
森 春樹

「緑内障は眼科疾患のなかでも特にシビアな疾患です。当院では初動が重要と考え、患者さんの思いに寄り添いながら、最先端の治療に取り組んでおります。どうぞ安心して私たちにおまかせください。趣味は横丁巡り。横丁を目当てに旅行に行くこともあり、忙しい日々の息抜きになっています」



涙道疾患／涙道手術



適切な診断、治療と手術で症状を改善

涙の排水経路である涙道のどこかで閉塞が起きると、涙の通りが悪くなり、流涙・眼脂を自覚し、さらに閉塞部位によっては感染症から重症化するケースもあります。涙道疾患は、閉塞部位に応じて治療方針を選択します。涙道小管閉塞には涙道内視鏡手術を、鼻涙管閉塞には涙嚢鼻腔吻合術と呼ばれる手術を行います。当院には、幅広い症状に対応できる多くの医師が在籍しております。涙がでるといいう症状は、他の症状に比べて軽視されがちです。しかし、私たちは、この疾患で悩まれている患者さんを救うために、一体どのような経緯で症状に至ったのか、ヒアリングを含めた丁寧な診断を行い、適切な治療と手術をご提案いたします。

緑内障



疾患の啓蒙と早期治療を目指す

緑内障とは、眼圧の上昇により視野障害が進行してしまう疾患で、日本における中途失明原因の一位です。初期段階では自覚症状がなく、多くの患者さんは他の病気や定期的な検診によって発見されることがほとんどです。緑内障で失われた視野は改善することができないため、疾患の啓蒙や早期治療が何より大切です。治療としては、侵襲の少ない点眼から始め、定期的に治療効果を評価し、必要に応じて点眼の強化や手術加療を行います。術式は流出路再建術や濾過手術など多岐にわたり、患者さんひとりひとりに合わせた術式を選択します。近年注目を浴びている低侵襲緑内障手術も数多く施行しています。緑内障は完治することがなく、治療も長期間にわたるため、その方針について難渋することが多いです。将来的に、緑内障の治療において、地域の先生方と情報共有や相談ができるシステムの開発を目指しております。

獨協医科大学病院

Dokkyo Medical University Hospital
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL:0282-86-1111 (代表)

獨協医科大学病院眼科
眼科外来 TEL:0282-87-2209



獨協医科大学 創立50周年記念事業



50周年記念事業に関する
お問い合わせはこちらまで
獨協医科大学創立50周年記念
事業推進室
企画広報部内
TEL:0282-87-2107



DOKKYO MEDICAL SCOPE



—— 獨協の今を識る —— vol.4



”みる“に挑戦する
最先端の
高度眼科医療



獨協医科大学病院眼科が提供する最新の手術技術



白内障の現状と進歩した治療法



最新情報を得て最適な治療を提案

白内障とは、水晶体の混濁が原因で、かすみや眩しさなどの視力障害を生じる疾患です。軽度の白内障には症状はなく、視力障害による日常生活の制約があった場合に手術が行われ、ほとんどの患者さんが手術治療によって視機能を改善することができます。現在は、技術や医療機器の進化に伴い、術後早期から良好な視野機能を獲得できるようになりました。当院では、進行した白内障や角膜混濁を合併した白内障、外傷後の白内障など、さまざまな原因による難易度の高い白内障手術の他、水晶体脱臼や眼内レンズの偏位・脱臼などの特殊な症例にも対応しております。白内障手術では、患者さんの生活スタイルに合わせて、単焦点眼内レンズや多焦点眼内レンズなどを選択することができます。私たちは常に術式や眼内レンズの最新情報を取り入れながら、患者さんにとって痛みやストレスの少ない治療を提供することを心がけております。また、栃木県という地域性もあり、遠方からいらっしゃる患者さんが、安全に治療を行えるよう、基本的に1泊2日の入院手術、両目の場合や難しい手術の時は、症状に合わせて負担のかからない入院日数を提案しています。



眼科 准教授
松島 博之

「患者さんのために何ができるかを常に考え、適切な対応を心がけています。もし見え方に不安や疑問を感じている患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。医師として丈夫な身体が必要と思い、トレーニングを日課としています。全国のおいしい日本酒探しも楽しんでいます」



低侵襲手術への取り組み



最新技術を導入した高度眼科医療

当院は、栃木県内に限らず隣県も含めた広範囲にかけて、最先端の眼科医療を提供しております。特に、網膜硝子体手術に対応する医師数は全国トップクラスであり、網膜剥離など緊急手術にも随時対応できることが特徴です。さらに、角膜移植は全国有数の手術件数を誇り、白内障術後の合併症である後発白内障、前嚢収縮に対する研究、白内障術後に埋没される眼内レンズの長期的な安定性に関する研究は、国内外の学会で多くの学会賞を受賞しております。現在、すべての外科的治療は、患者さんの心身の負担を軽減し、術後の早期回復と社会復帰を図るために低侵襲手術へと発展しています。当院でも、患者さんにとって早期の視機能回復が重要と捉え、白内障や網膜硝子体手術、涙道内視鏡手術、緑内障の治療において小切開で行われる手術や外来手術にも、積極的に低侵襲手術を取り入れております。私の専門である角膜移植(パーツ移植)も、低侵襲手術は向いており、表層角膜移植や角膜内皮移植など、必要な角膜の一部だけを移植する手術や、非常に浅い角膜表面の濁りにPTKエキシマレーザーを使用して、角膜の表面を切除し、角膜を透明にする手術にも採用しております。フラップ作製時に、眼球への負担をより軽減できるフェムトセカンドレーザーや、患者さん一人一人に合わせたカスタムメイドのレーザー照射(LASIK)など最新の手術技術を導入し、患者さんに最良で安心安全な医療をお届けいたします。

眼科 主任教授
妹尾 正

「当院は、全国的にもトップレベルの眼科医療を行っております。私たちは常に患者さんの立場に立ち、丁寧な診察を行うことを何よりも大切にしておりますので、何卒よろしくお願いいたします。日頃の楽しみは、美術館に足を運びアート作品を鑑賞することや、お酒や料理を堪能することです」



眼科 准教授
永田 万由美

「患者さんがもう二度と手術をしなくてすむように、手術に臨んでおります。また、栃木県は高齢の方も免許を必要とする地域のため、病气予防にも尽力したい所存です。プライベートでは、飛行機が大好きで、いつの日か長期休暇をとって、飛行機免許を取得したいと密かに考えております」



網膜硝子体疾患



緊急疾患の高度な手術にも対応

眼内の出血で硝子体が濁ったり、眼内の壁から網膜がはがれるなど、網膜の機能が低下する網膜硝子体疾患は、網膜の機能が失われると失明するリスクが高くなるため、緊急手術が行われることも多い分野です。このような網膜疾患を治療する手術を網膜硝子体手術といい、出血で汚れた硝子体を切除したり、網膜上にできた増殖膜を除去したり、また、網膜剥離の症例には、眼内にガスやシリコンオイルを注入し治療します。網膜硝子体手術は、とても繊細な手術となり、技術の習得にも時間がかかるなどの理由から、マンパワー不足が課題となっています。当院では、大学病院ならではの精度の高い診断を可能にする検査機器や、最新の治療機器を揃えているだけでなく、網膜硝子体手術に対応できるオペレーターが多く在籍しており、患者さんをお待たせすることなく、迅速に手術を行うことができます。今後も、県内トップレベルの地域医療機関としてのプライドをもち、患者さんが安心して治療を受けられるよう、万全な体制で治療に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



※QRコードを読み取ると、診療に関する解説動画(YouTube)をご視聴いただけます。または、「DOKKYO MEDICAL SCOPE ー獨協の今を識るー」で検索してください。